第５学年　図画工作科　学習指導案

☆研究テーマ
見方や感じ方を深め、自分なりの意味や価値をつくりだす絵画鑑賞指導の工夫

１　単元名　「みえる・聞こえる・サウンド浮世絵」
＊「名所江戸百／大はしあたけの夕立」（歌川広重）より

２　ねらい
浮世絵に興味・関心をもち、造形的な特徴を関連づけて想像を広げ、作品のよさや情景描写の美しさを感じ取ることができるようにする。

３　授業者の主張
（１）目指す子どもの姿
本単元で目指す子どもの姿は以下の通りである。

イ　課題解決に取り組む意欲や自分なりの見通しをもつ。
ク　他者に自分の考えの意図や根拠が伝わるように工夫して説明をする。
ケ　他者の考えを、意図(共感的、分析的、批正的、建設的)をもって聴きながら、自分の考えを確かにしたり、更新したりする。
ソ　学んだことをとらえ直したり新たな課題を見付けたりして、学びの実感と探究意欲を高める。

（２）目指す子どもの姿の具現への手立てとアクティブラーニングの工夫
①　目で音を聞く（対話型鑑賞）
日本美術の作品から「音」を感じとる鑑賞の場を設ける。子どもたちが、「音」を感じ取り表現する学習を経験することにより、様々な作品を鑑賞する際も、その手がかりの一つとして「音」に着目して鑑賞し、その作品のよさや意図、特徴を捉えられるようになることを目指す。
本時では、「名所江戸百景／大はしあたけの夕立」（歌川広重）を提示し、子どもたちに絵から聞こえてくる「音」を考えさせる。その理由を発表し合うことにより、様々な視点から絵を鑑賞する楽しさを味わわせると共に、自分なりにその絵のイメージや絵に対する思いを膨らませていく。
②　音をカタチにあらわす
イメージを視覚的に表したものを媒介に友達と交流させる。音をカタチにあらわすということは、抽象的な表現であるために、色や形、大きさなどがその自分のイメージをつくりだす大事な要素となることを教え、それらをどう活用するかについては、子どもに委ねることとする。また、絵を描く用具も筆だけではなく、様々なものを活用し、いくつかの表現技法を取り入れながら、子どもたちが新しい発見や試みができるように工夫していく。そして、表現されたものを鑑賞する活動では、その作品が「上手」とか「下手」ではなく、「なぜこのような表現をしたのか」というような一人一人の表現の意図を探るような活動を取り入れる。一人一人の表現のよさを見出し、互いに好意的な発言や反応を受けることで、自信をもって自分の思いを表現でき、さらに自分の感じ方や見方を深めていけるようにする。

＜材料・用具・表現技法＞

| | |
|---|---|
| 材料 | 絵の具　画用紙、色画用紙 |
| 用具 | 霧吹き　ローラー　はけ　ストロー　スポンジ　ほうき<br>マッサージローラー　スパッタリングセットなど |
| 表現技法 | ぼかし　ドロップピング　ローラー　スタンピング　フロッタージュ<br>スパッタリング　吹き流し |

**③　音声多重式鑑賞による鑑賞のまとめ**

美術作品の鑑賞経験が少ない子どもたちにとって、何も手がかりなく一枚の絵を鑑賞し感想を述べるのとは違い、「音」に着目させ表現活動を取り入れることで、より感想が深まり、作品に対する親しみや関心が高まるものと考える。それは、生活経験から音を想像し、見つける過程で絵と自分の生活が結びつく瞬間があるからである。

子どもたちは、「大はしあたけの夕立」の絵を見て「音」を想像し、そのイメージをカタチに表現したりして、思いを膨らませていく。それにより、作品に秘められた広重の見えない声にも耳が傾き、作者の意図や作品の特徴を自分なりに解釈し、作品に対して思いや親しみをもつことができるであろう。

4　本時の展開

| 時 | 学習活動 | 教師の働きかけ(T)と予想される子どもの姿(C) | ○留意点　■評価 |
|---|---|---|---|
| 課題把握<br>7分 | 作品を見る視点として「音」があることを知る。<br>（出会う） | T:本日の作品オープン！<br>歌川広重の名所江戸百景シリーズ第５８景「大はしあたけの夕立」という作品です。<br>C:歌川広重？聞いたことがあるぞ。<br>C:はげしい雨がふっているけど、ここはどこだろう。<br>C:今日は何を手がかりに作品を鑑賞するのかな。<br>T:今日の作品を見るポイントは「音」です。<br>C:えっ！絵から音を探すってどういうことだろう。 | ○作品背景について簡単に解説し、目で音を聞くという活動の意図を理解させる。<br>○個→班→全体と形態をリズムよく動かし、思考を拡散→収束させていく。 |
| 課題解決<br>①<br>15分 | 作品に描かれた要素をもとに様々な音を想像する。<br>（広げる） | **T:作品から聞こえてくる音をできるだけ沢山集めよう！**<br>**◎音を手がかりに作者が伝えたい情景を読み解こう**<br><br>【鑑賞〈1〉サウンド探検の方法】<br>①絵を見てどのような音がどこからするか、どのくらいの大きさの音かを想像する。<br>②想像した音を、記号や擬音で場所や大きさが分かるように絵にかき込む。<br>③自分が表した記号や擬音について、班の友と理由を説明し合う。<br>④グループでの話合いで議論が集中した点を中心に、見方や感じ方を全体で共有する。<br>C:みんな、自分が気付かない音を見つけてすごいな。<br>C:絵から音を見つけるっておもしろいな。 | ○生活経験から見つけて想像した音をまなボードに書き込ませる。互いの感じ方を視覚化していくことで、見方や感じ方は多様にあることを明らかにする。<br>■自分が感じたことを友人と話し合うことを通して、作者の表現の意図に迫ることができる。 |
| 課題解 | 作品の見方や感じ方を深め、新たな自 | T:「ザザーッ」っていう音を見つけた人が多いね。<br>C:ぼくは、「ザッ」っていうより「ザーザー」だと思う。<br>T:この絵の雨の強さは実際はどのくらいだと思う？ | ○漠然ととらえていた音のイメージをカタチにしたいと |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 決<br>①<br>15<br>分 | 分なりの意味や価値をつくりだす。<br>（広げる） | C:自分のイメージを描いて説明したい！<br>C:他の見つけた音もクイズにしてみたい。<br>**T:サウンドクイズを作ってみんなのイメージをカタチにしよう！**<br>【鑑賞〈2〉サウンドクイズの方法】<br>①想像した音のイメージを、記号や線、色や模様を工夫して白いカードに描く。<br>②自分が表したイメージを記号や線、色や模様について、班の友達と理由と紹介し合う。<br>③グループでの話合いでみんなが納得したカードを中心に、クイズ大会を開き、見方や感じ方を全体で共有する。<br><br>T:友達が考えたサウンドクイズを当てよう。<br>C:わたしが見つけた音はみんなに分かるかな。<br>C:すごいな。「ピチピチッ」っていう感じがよく伝わる。<br>C:「カッカッ」っていう響き、生活感があっていいな。 | いう気持ちにさせることで、作者の表現の工夫に迫らせる。<br>○音をカタチにすることで、言葉だけではうまく言い表せないイメージを互いに伝え合う手助けとさせる。<br>■感じとったイメージや思いを、自分なりの表現方法で表す活動を通して、細部を意識して観察したり、特徴を捉えたりすることができる。 |
| まとめ<br>8<br>分 | 「大はしあたけの夕立」を再鑑賞し、作者が１番表したかったことを話し合う。<br>（深める） | T::今日の学習をまとめよう。音を手がかりに鑑賞して見つけたことは何だろう。<br>☆いつもはにぎわっている橋が、突然の夕立に驚いて、人々が急いでいる日常の風景を豊かな表現で伝えた。<br>T:みんなの意見なども参考にして、感想を書こう。<br>「大はしあたけの夕立」<br>＊いつもはにぎわっている橋が、突然の雨に驚いて、人々が急いでいる様子が伝わってくる。<br>＊細い線と太い線を組み合わせて雨の激しさを表現したり、橋の下の川の色を濃い青にしたりして雨の日の様子がよく伝わってきてすごい。<br>＊もしかして、突然の雨にゆううつな気分の人々を描いたかったのかもしれない。広重の作品には、そこに暮らす人々の感情まで表現されていると感じた。 | ○自分の捉えた音を手がかりに作品と対話していくことができるということ、それが作品の世界を自分の目で創造していくことであること、そうやって自由に作品を見るといいことを伝える。<br>■日本の美術作品をよさや意図を感じ取ることができる。 |

5　評価

A:伝え合いに積極的に参加し、作品をみて、また、友達の見方を聞いて音を想像することから、作品に込められた思いや表現者の意図を想像することができる。

B:伝え合いに積極的に参加し、想像した音を根拠立ててみんなに伝えたり、友達がたどった作品の音の感じ方から新たな見方や感じ方をしたりすることができる。

**6　参考文献・資料**

・「みてつくる鑑賞遊びを取り入れた表現活動」西村徳行 著（学事出版）

7　板書計画

2/14 鑑賞教室

作品を見る
ポイント
〇表情
〇作品名
〇色

〇背景
〇音
〇ポーズ

作品「大はしあたけの夕立」
（歌川広重）

**◎音を手がかりに作者が伝えたい情景を読み解こう**

ボード

☆いつもはにぎわっている橋が、突然の夕立に驚いて、人々が急いでいる日常の風景を豊かな表現で伝えた。